

春日部で全国デフバスケット

25、26日 手話、アイコンタクト駆使

聴覚障害者による「第15回全国デフバスケットボール大会（埼玉ミニリーグ）」が25、26日、春日部市総合

体育館（ウイング・ハット春日部）で開かれる。

日本デフバスケットボール協会が年1回、選手の交流と、競技力向上を図る大会で、県内開催は2007年の所沢市以来10年ぶり。本県をはじめ全国各地の男子10チームと女子7チームが出場し、25日は主に予選リーグ、26日は決勝トーナメントを行う。

ルールは通常のバスケットと同じだが、聴覚障害者は審判の笛が聞こえないため、ジャッジをコート外にいるフラッグマンが旗で示す。

ミニリーグでは障害の有無を超えてともにバスケットを楽しむよう、健常者も出場できる。

同協会副理事長で競技委員長の会田孝行さんは「知名度はまだ低いですが、手話、アイコンタクト、ジェスチャーなど、様々な方法を駆使してコミュニケーションをとるバスケットがあると知ってほしい」と観戦を呼びかけている。

埼玉
スポーツ

観戦無料。大会概要はホームページ（<http://jdba.sakura.ne.jp/2017mimileague/>）で問い合わせ
は埼玉ミニリーグ実行委員会へ電子メール（saitama2017mimileague@gmail.com）で。